

徳之島事務所（令和7年5月分）管内情勢

農林水産業関連

1 パッションフルーツは5月下旬から収穫開始見込み

5月1日に天城町にてパッションフルーツ栽培講習会を開催し、生産者・関係者計28人が出席した。今年産の開花始めは、6割が平年並みで4割が平年より遅く、収穫開始は5月下旬の見込みである。一部の園地で生育不良の樹が見られており、栽培講習会では耕盤破碎や明きよによる排水対策、土壌還元消毒、病害対策などについて指導を行った。農業普及課では、今後も生産安定及び品質向上対策などを支援していく。

2 ピタヤの新規栽培ほ場の一部で今年度から収穫開始見込み

4月30日に伊仙町にてピタヤ幼木講習会を開催し、生産者・関係者計23人が出席した。当地域で選抜した優良系統の苗を令和5年度から希望者へ有償で配付しており、本講習会は新規栽培者を対象に開催し、排水対策や着果安定対策、鳥害対策、病虫害防除などを指導した。令和5年度に植え付けたほ場の一部において、今年度に収穫・出荷が始まる見込みであることから、農業普及課では樹冠拡大を図りながら着果させる栽培技術について指導していく。



3 徳之島地域の生活研究グループ連絡協議会総会の開催

5月16日に徳之島地区生活研究グループ連絡協議会（以下、生研G）の総会が開催され、徳之島町、伊仙町、天城町の3町から会員・関係者計51人が出席した。徳之島町生研Gの活動では親子料理教室を開催し、好評であったことから、次年度も取り組む予定であることや、天城町生研Gでは会員の高齢化が進む中での若いグループ員の加入など明るい報告もあった。農業普及課では引き続き各町と連携し、徳之島地域の活性化に向けた活動支援を行う。

4 農村女性組織の県域研修開催に向けて協議

5月26日に徳之島町役場多目的ホールにて徳之島地域の女性農業経営士組織「参画21とくのしま」の総会が開催され、女性農業経営士・関係者計15人が出席した。今年度は7月10日～11日に徳之島にて県農村女性リーダーネットワーク会員を対象とした県域研修を開催する計画であり、想定以上の約50人の参加希望者がいることを受け、行程の見直しや当日の運営について協議した。農業普及課では、引き続き関係機関との調整や県域研修の開催準備や運営を中心に支援を行う。

5 エコハカマ利用グループの実績を検討し、次年度への拡大を目指す

5月16日に伊仙町にてエコハカマ（牛に直接給与可能なさとうきび収穫残渣のハカマ）利用モデル組織の令和6年度実績検討会が開催され、回収者、利用者、関係者計4人が出席した。実績は、回収量16.9t、回収面積約1.7ha、回収日数11日、給与頭数計約1,820頭であった。利用者からは牛の採食性が良く、値段も抑えられると好評であったが、回収者からはきび収穫網の使用が回収量の制限要因になっていると問題点が挙げられた。次年度は今期の課題を踏まえ、回収量増加を目指す。

6 高栄養飼料作物（飼料用トウモロコシ）が順調に生育

5月22日に徳之島町の飼料用トウモロコシ展示ほ場にて、営農推進本部畜産部会による現地検討会が開催され、生産者、関係者計11人が参加した。展示ほ場は、トウモロコシの青刈り給与による生産牛の栄養改善を目的に3月上旬から下旬に6か所設置した。3月2日に播種した早生品種はツマジロクサヨトウの被害がなく順調に生育し、稈長は約3mに達し、子実の肥大が始まり、多収が期待できる。参加者からは肥培管理や品種特性に関する質問が出され、関心が高かった。



7 「畑かん営農の推進」まずは関係職員の理解から

5月21日に農業開発総合センター徳之島支場にて、徳之島地域営農推進本部土地利用畑かん部会主催の「畑かん営農推進研修会」が開催された。研修

会には、今年度新たに農政及び耕地関係機関・部署に着任した職員を中心に39人が参加した。参加者からは「地域農業の特徴と営農と水の重要性が認識できた。畑かん水の利用について周知したい」との声が上がった。農業普及課では引き続き、関係機関・団体一体となって徳之島地域での畑かん営農を推進していく。



8 「畑かんマイスター」令和7年度の活動始動

5月23日に伊仙町にて徳之島地域畑かんマイスター連携会議の総会が開催された。畑かんマイスターは、畑地かんがいを利用した先駆的な営農を実践している農業者で、3町5人ずつの15人が委嘱されており、畑かん営農の実践活動や行政への提言、地域における助言活動等を展開している。今年度の活動について、マイスターから「実践活動や県内外の事例調査、地域農業者への助言・周知活動等を通じて、畑かん営農の伝道師として徳之島農業の発展に寄与したい」との声があった。

9 新規就農者がばれいしょの裏作を活用した稼ぐ力の取組を実施

徳之島では夏場の高温・干ばつや台風等があることから、ばれいしょ後作のほ場は活用されていない。そのため、天城町の新規就農者ほ場にて、沖縄への出荷を視野に労力競合のない青果用さつまいもの栽培に取り組んでおり、高品質のさつまいも生産に向けて、有機物の投入や4種類のマルチ試験を行っている。また、生産者や関係機関・団体で、出荷に関する検討等を行い、今後、面積拡大の可能性等、町が主体となった検討がなされていく。

10 さとうきびの生産振興について検討

徳之島さとうきび生産対策本部では、昨年から課題となっている精脱用施設の料金の値上げについて、生産者と検討を行っている。当初は値上げに反対の意見が多かったが、議論を重ねることで理解が得られてきており、今後も検討を続けていく。また、昨年一部で発生があった黒穂病は、現在、発生はみられないものの、関係機関・団体のほ場巡回や町の放送を通じて、注意喚起と発生した時の対応を呼びかけ、警戒を行っている。

11 青年同士で語り合う「メロンに適した土壌環境とは？」

5月27日に天城町農業センターにて、メロン青年組織主催の勉強会が開催され、青年および関係者計13人が参加した。4回目の開催となった今回のテーマは土壌化学性であり、土壌分析の実施や分析結果に基づく施肥の重要性について意見交換等を行った。「これまでは土壌酸度のみを気にしていたが、それだけではいけないこと実感した。」との声が聞かれるなど、青年の意識改善が図られた。農業普及課では、今後も本活動の支援を継続する。